

令和4年度 第2回地域学校協働本部運営委員会 議事録

開催日時：令和5年2月10日(金) 10時～11時

開催場所：我孫子市教育委員会 大会議室

出席者：地域学校協働本部運営委員7名 欠席委員1名
事務局3名

1 開会の挨拶

略(傍聴者なしの報告)

2 指導課長挨拶

本日は雪も心配される悪天候ですがご出席いただきありがとうございます。

今年度は、市内小中学校でコミュニティ・スクールが開始されたことに伴って、今までの学校支援地域本部が地域学校協働本部と名称が変わり、それまでの一方的な学校支援から学校と地域がWin-Winの関係に、そして市長部局や地域の社会教育団体を巻き込んだ幅広いネットワークの構築を目指して活動を進めてまいりました。

今日はその1年間を振り返るとともに、来年度に向けて委員の皆様には忌憚ないご意見をいただきたいと存じます。

3 令和4年度活動報告(事務局)

コミュニティ・スクール元年となった今年度、従来の学校支援地域本部が地域学校協働本部と名称を変えるとともに、それまでコーディネーターが個々に学校とボランティアを繋いでいた学校支援から、コミュニティ・スクールを土台として推進員中心に学校・地域・行政・社会教育団体などとのネットワークを構築する学校支援、そして、学校と地域がWin-Winの関係になることを目指して活動を進めてきました。

我孫子市全体としての今年度の報告、振り返りとともに来年度に向けての話、今考えていることなどの説明をさせていただきたいと思います。

始めに、4月の段階で皆さんにお示しした令和4年度の基本方針に沿って今年度を振り返ってみたいと思います。スライドと資料は2Pとなります。

まず資料の(1)、CSの導入に伴って各学校の年間計画、マネジメントシートを再考して活動を見直すということがありました。これについては、見直しをしたとはいえ、実質、学校が単独で作成しているという実態があり、CS委員や推進員との共有が不十分なことが明らかになり、運用方法に見直しが必要なことがはっきりしました。

また、コロナ禍による活動制限の緩和や対応方法等の変化によって、後からも述べますが、学校支援ボランティアの実績数も回復傾向にあり、そういった流れも含めた見直しも今後必要かと思えます。

次に(2)、学校運営協議会と連動した地域学校協働活動の推進、一体的推進ということになるかと思えますが、取り組む計画としては①、CS委員と推進員の合同研修会など開催方法の工夫がありました。今年度、合同研修会自体はありませんでしたが、推進員の研修会に自発的に参加するCS委員が次第に増えてきたという状況が見られました。

②、学校運営協議会への事務的サポートについては、教育委員会としても各学校に専用のPCとプリンターを設置して環境を整えた他、推進員も広報紙の作成やHPの更新、メール配信などを担う方が出てきました。

③、学校と地域との熟議については、教育ミニ集会の活用や地域会議に積極的に参加する学校が見られました。

続いて(3)、ネットワーク化の推進です。これも後から述べますが、行政や社会教育団体との連携の一步を踏み出した学校がありました。また、大学生・高校生の学校支援に関しては、コロナ禍からの回復傾向にあることに加え、現在、来年度に向けて理科系大学との連携も模索しているところです。

以上、スライドでは赤字で示しましたが、多くの学校が共通して前進しながら成果をあげていることは確かですが、進捗状況に学校による差が出ている面もあった今年度であると捉えています。

次に、スライドと資料では3Pをご覧ください。今話したことのいくつかを裏付ける学校支援ボランティアの状況についてまとめたものです。

そして資料4Pを見てください。まずはっきり言えることは、先ほども触れた

ように、コロナ禍により令和2年度より減少していた学校支援ボランティアが、ようやく増加傾向に転じたということがわかります。

また、資料4Pでは昨年度からボランティア実数集計に係る項目が変更された関係で、令和2年度以前との比較がわかりにくいのですが、その活動内容を昨年度と比べながら見ていくと、資料4Pでは、実績報告の⑧に当たる授業準備・補助、授業における子ども達の支援が増加し、子ども達の豊かな学びに繋がっていることが大きな成果だと思います。

さらに④の授業以外における対応、これは読み聞かせや図書ボランティアなどが該当しますが、これも増加、子ども達の豊かな学びに繋がっています。

そして⑨の学校行事への支援や⑩のその他、これは環境整備や先ほども言ったHPの更新・連絡メールの配信などが該当しますが、これも増加したことによって子ども達の豊かな学びはもちろん、教職員の働き方改革にも寄与していることが窺えます。

さらには、学校支援だけではなく地域行事への参加や①の登下校時の安全確保も、若干とはいえ増えていることは成果としてあげられるのではないのでしょうか。

逆に、⑤の校内見守り等が大きく減っているのですが、これはコロナへの対応、主に消毒に関わるボランティアですが、段々必要なくなってきた、対応方法が変わってきたということ、そして、③のボランティアとの連絡調整が減っているのは、GS導入によって活動が組織化されたりSNSが有効に活用されたりしたことが要因だと思われます。なお、学校ごとの学校支援ボランティアの内容については、資料の5Pと6Pに掲載してあります。

続いて資料の7P、学生ボランティアの推移ですが、これも全体としてコロナ禍による減少から、ようやく増加傾向に転じてきました。詳細は省きますが5Pと6Pの各学校別のボランティア内容のページも参照してみてください。

そして、口頭での報告となりますが、今年度、各学校の運営協議会会議を参観させていただいて、第1回目の時は評議員会議と何ら変わらず、話し合ったことを「学校がやってよ」という雰囲気であったものが、回を重ねるごとに「支援するから学校は何でも言ってよ」に、そして、いつの間にか「一緒に考

え一緒にやろう」と変わってきたことが何よりも大きな成果であったと考えています。

また、昨年度にCSを先行実施した布佐中学校区の他に、推進員の意欲的な活動とそれを支える学校態勢によって、それまでほとんどなかった地域連携の一步を踏み出せた学校や、推進員の自発的な活動によって昨年度を大きく上回る学校支援の輪が広がり、子ども達の豊かな学びが実現しつつある学校、推進員の発案と学校との熟議によって、子ども達の活動によって地域を元気にするための取り組み、挨拶運動などを進めつつある学校と、この1年間で成果をあげている例が散見されたことも我孫子市全体の発展に大きな意味があったと思っています。

逆に、今、あげさせていただいた学校も当然のことながら様々な課題を抱えているわけですが、我孫子市全体の課題として、学校による進捗状況の差があげられます。

まず、資料のグラフはボランティア実績数の学校間の比較です。ただ、これについては少ないよりは多い方がいいことは間違いありませんが、例えば、登下校の見守りがあるかないかでも人数の差はかなり違ってきますので、詳細はこれも資料の5Pと6Pの学校ごとのボランティア活動の内容を見ていただければと思います。

ちなみに、前に映っているスライドは12月末日までの学校ごとの学校支援ボランティア実績数です。

そして、重要な課題は推進員のここまでの活動実績です。推進員1名は学校運営協議会委員であることを考えても、推進員の活動実績が少ないというのは、コミュニティ・スクール自体の運営が形骸化して本来の目的に沿って行われていないということにも繋がりますし、当然のことながら「地域とともにある学校」の本来の目的に達する取り組みとはなっていないということです。

市教委では予算の関係もあるとはいえ、目的達成のために学校単位で年間96回の活動回数を想定しており、資料にある各学校での12月末日までの推進員の活動実績数を見ると、先ほども話したような学校による進捗状況の差を感じる根拠となる資料になるのかなと考えています。

それでは推進員たちの活動を阻んでいる原因は何なのか。推進員に時間的な余裕がないのか、推進員と学校の連携がうまく取れていないのか、CSであるにも関わらず学校が単独で物事を進めていってしまうのか、そのあたりを突き詰めて考えていくところから次年度に向けての課題解決を図っていく必要も強く感じています。

また、今年度いろいろな学校を見ていて思ったことなのですが、スライドは学校運営協議会と推進員の基本的な役割、つまり、原則としては、学校運営協議会が参謀となって活動方針や活動内容を協議し、それを実働部隊のトップである推進員が受けてボランティア派遣に向けてコーディネートするという図になっています。

ただ、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進がうまくいっている学校を見ると、学校運営協議会に推進員の1人が入っているのとは別に、CS委員自身もただの参謀ではなく、実際にボランティアとのコーディネートや地域の社会教育団体等とのコーディネートをしていることが多いようです。次回CS委員の人選(再来年度になります)をする際には、このことも大いに参考にすべきとも考えています。

4 令和5年度活動方針案と取り組みの概要(事務局)

長くなってしまいましたが、ここからは来年度に向けてです。まずは各学校に依頼してある来年度に向けての提出物と関連させて話をしたいと思います。

始めに資料の8Pです。地域学校協働活動推進員並びに教育活動推進員の名簿です。

まず地域学校協働活動推進員については、予算の関係もあって学校単位で年間96回の活動を基準としていますが、学校で複数配置することも可能ですので先ほど示した今年度の状況を見て、例えば、推進員が多忙でなかなか活動が難しいなどの場合は、学校と推進員で相談して新たに1名選出するなどの対応をとるように学校担当者をお願いしています。

続いて資料9Pのマネジメントシートです。何よりも大切なことは、このシ

ートとシートに基づいて作成する10Pの年間活動計画を推進員はもちろん学校運営協議会の場でも話題にして、必ず推進員やCS委員と共有すること。当然、推進員とも相談しながら作成することも大切になってきます。先ほど示したグラフのように学校と推進員との連携が図れていないという状況はなくすように、これも学校担当者に話をしております。

また、後から述べますが、小中一貫の観点からもマネジメントシートの2にあるような中区での情報交換の場を、また3には来年度、特に重点的に取り組みたいことを、そして4に記載した活動については年間計画の中に位置づけるようになります。

資料は11P、学生ボランティアの要請計画書です。各学校からあがった要請計画を一覧にして市内を中心とした各大学と高校に情報提供。それを基にして各大学・高校は学生・生徒を募集して各小中学校に派遣することになります。

続いて、今まで話したことをすべて加味しながら作成した令和5年度の活動方針と取り組み内容について説明させていただきます。

まずは資料12P。令和5年度、すべての小中学校で「地域とともにある学校づくり」を経営の柱とし、学校を核としながら社会(地域)全体で子ども達を育む態勢をより強固なものとし、未来を見据えたまちづくりに繋げていくために、引き続き地域学校協働活動を学校運営協議会の運用とともに積極的かつ一体的に推進していきます。

そして、我孫子市教育施策の目玉でもあり、コミュニティ・スクールとは切り離せない関係にある小中一貫教育との一体的推進にも取り組んでいきたいと考えています。

さらに、我孫子市全体として地域学校協働活動を活発化するために、学校間の取り組み状況の差を縮め、2年目を迎えるコミュニティ・スクールの本格的運用に資するように教育委員会として後押ししていきたいと思っています。

具体的な取り組み内容については、資料13Pです。(1)の活動計画の共有・見直しについては既に述べたとおりです。

(2)、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進の①については、情

報の共有ができていなかったという今年度の反省を基に、学校運営協議会で自校地域学校協働活動のCS委員への周知と評価、活動に向けた熟議を必須の議題としていきます。

(2)の②、CS委員と推進員の合同研修会については、来年度は既に8月に計画しており、推進員の研修会にも今年度同様、CS委員の自発的な参加を求めています。

(2)の③、学校運営協議会への事務的サポートについては、今年度、前進した学校を手本としながら、その広報と啓発に努めます。

(2)の④、学校と地域の熟議については、教育ミニ集会の場を有効に活用できるように、その開催方法について学校、推進員と協議していきたいと考えています。

(3)、小中一貫教育と連動した地域学校協働活動については、既に述べたように、中学校区での情報交換の場を設けながら、カリキュラムと関連付けた地域学校協働活動を見直し、小中一貫に資するための活動、特に体験活動等の整理を行っていききたいと考えています。

(4)、ネットワーク化の推進については、学校間格差の是正という観点からも、教育委員会で学校と地域の社会教育団体や教育施設との連携を順次、後押ししていきます。

また、大学・高校との連携については、現状に加え、来年度は理系である東京理科大学との連携を計画しているところです。

放課後子供教室「あびっ子クラブ」コーディネーターと推進員の情報共有も数少ない機会ですが、お互いの立場からの意見交換等をこれまで通り行います。

そして(5)、この運営委員会の見直し、改編については、学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進を図る観点からも、本運営委員会に学校運営協議会の代表が参加していないという現状を鑑み、再来年度に向けて組織・構成メンバーの検討を進めていきます。

最後に来年度の研修会予定ですが、資料の15Pをご覧ください。

今後、日程の変更等はあるかもしれませんが、大枠はここにある通りです。運営委員会は4月12日と来年2月9日に。先ほど触れたように、8月の研修については8月4日に我孫子中学校で、また、これ以外にも6月の最終週に管理職向けの研修会を開催する予定でいます。その他は資料をご覧ください。

私からの説明は以上です。ご清聴ありがとうございました。

5 協議

【地域学校協働活動推進員代表】

布佐中学校の地域学校協働活動推進員と学校運営協議会委員を兼ねて活動しています。よろしくお願いいたします。

どうしても自分の学校のこととなってしまいますがご容赦ください。布佐中学校では私が中心になって進めさせていただいているのですが、先ほど事務局から説明がありましたように特に図書ボランティア、これは登録をしておられる方が図書室の清掃とか本の管理だとかを司書の先生のサポートをしながらローテーションを組んで熱心にやってくれています。

それから、家庭科の授業支援では和服の着付けについて、地域の着付けの先生方を講師にして行いました。昨日の調理実習では、布佐中学校は生徒数が少ないのですが、地域のボランティアさんが、シニアの方たちですね、調理のベテランとして一生懸命指導してくれました。また来週に2回目を開くようになっています。

他にも夏の宿題お助け隊など、いろんな形で子供たちを支援できるように考えて活動を展開させてもらっています。

さらに、放課後の子供たちの学習支援ということで、布佐こども学習室を継続して運営してきました。来週もあります。毎週子供たちが60人ぐらい通っています。子供たちのサポートは元教員を中心として行い、心ある人たち含めて別に応援してくれるスタッフもおおり、活性化しています。

最後に、総合的な学習の時間で行っている布佐カリキュラムについてです。これを計画するにあたって、このコロナ禍で子供たちとの接触が厳しい中、どのように布佐の歴史の語り部さんたちと子供たちをつなげるか、また、語り部さんの次の世代の育成が課題です。さらに、布佐歴史サロンという学習会を学校で開催していますが、大変に好評で地域の方から多くの参加をしてもらって

います。活動報告となってしまいましたが、皆さん本当によく頑張ってくれています。

【子ども支援課放課後対策・青少年係】

私どもは「あびっ子クラブ」を所管しております、それぞれの学校でボランティアの方にいろいろご活躍をお願いしております。今回、活動報告等とここまでの経過などを伺い、学校間の進捗状況の差がちょっと気になってしまいました。この差が生じる原因が、多忙など推進員の状況次第ということになると、すべての負担を推進員が負って解決していくのは難しいかと思いました。さらに、その地域の特徴というところもあり、そこは均等化するのには難しいかとも思います。

実際、先ほどお話あった学習に力を入れているところもありますし、環境整備だとか学校行事、その地域独特の行事もあつたりすると思いますので、そちらの方で実は学校と関連していなくても、ボランティアで一生懸命やっているというような話もあると思います。そして、その特徴を生かしつつその平均的な活動頻度を保つというところで、その情報の共有や集まる場がないと難しいと思いました。さらに、ボランティアの方にも、確か1回目の運営委員会資料にあったと思いますが、コミュニティ・スクールの仕組みが図示してある中で、自分がどこの位置にいるのかというのがわかるようになればいいと思いました。

【校長会代表】

我孫子第四小学校では、地域学校協働活動推進員の方に大変ご活躍いただき、例えば6年生の懇話会の講師を見つけて来ていただいたり、ミシンボランティアを募っていただいたりして、とても学校の教育活動に役に立っています。

それから、本校は児童数が多いので、まだコロナ禍ということもあり、運動会や音楽発表会などの学校行事を全校一斉にではなく学年別に行っています。ただ、全校一斉に行わない場合、役員や係などの人出が不足しがちですが、学生ボランティアの方も運動会などの準備の時にお手伝いに大勢来てくださったのでとても助かっています。

また、先ほどの事務局の話を聞いていて、本校も学校運営協議会との連携がうまく取れていないところがあるので、今後は先ほどの活動計画や年間計画、マネジメントシートを学校運営協議会委員と共有して進めていきたいと思いました。

【教頭会代表】

よろしく申し上げます。日頃から普段の学校教育活動にいろいろご協力いただきまして本当にありがとうございます。

ここまでのご意見の他、湖北台中学校では書道のボランティア、調理実習や着付けなどでも、授業者をサポートしていただいて大変助かっております。学生ボランティアも来年度、理科系の大学の方にも声をかけていただけるということで、非常にありがたいと思っています。

湖北台中学校区の特徴として、理数系が苦手な生徒が多いので夏休み等の学習会で補習をしています。算数・数学の方を重点的に教えていただくと、教員の労力もだいぶ減り、働き方改革にも繋がるということで、大変よい活動計画案だと思いました。ますます学校の方も頑張って活用できるようにしていきたいと思います。

以上です。

【地域学校協働活動推進員代表】

子ども支援課課長補佐にちょっとお伺いします。

布佐中学校区においては、我々が推進の中心となって、地域での学習支援として、先ほども説明した「ふさ子ども学習室」を開き、毎回60から70人の児童、中学校の生徒は少ないですけども、多くの小学生が利用しています。そして、「あびっ子クラブ」の中に、スタート時間を決めて「チャレンジタイム」として学習の時間を設けています。元小学校の教員数名が、家庭学習の習慣づけという大きなテーマのもとに宿題などの支援をしているわけです。布佐小学校の場合などは、30人をゆうに越すぐらいの子供たちが「あびっ子」に来て、そこにボランティアの方も駆けつけてくれて、勉強したい子供を教えてくれる、そういう形で展開しています。

他の小学校にも「あびっ子」は設置されていますが、まだ布佐中区の2つでしかそういう形で学習の時間が展開されていない現状です。ぜひご検討いただいて、他の児童数が多い「あびっ子クラブ」でも、そういった学習支援について協議していただいて、実現可能な話だと思しますので、できる可能性を探してご検討いただければありがたいと思っています。

【子ども支援課放課後対策・青少年係】

ありがとうございます。実際は、布佐に限らずいくつかの小学校では学習の時間を設けております。子供たちだけで勉強する時間を設けている学校もあれば、ボランティアの方がいらっしゃって教えてくれている学校もあろうかと思えます。「あびっ子クラブ」のボランティア(サポーター)が、学習支援や囲碁、将棋などを教えているので、学校支援ボランティアの方の都合と「あびっ子クラブ」を使える時間帯で教室運営を計画し、「何月まではできる」というような形になればよいと思っています。小学校の各「あびっ子クラブ」で受け入れることができるようになったら、地域の方からボランティアを募るといったことを検討したり、利用する保護者の方にはおたよりを通して広報・周知をする。保護者の方からは「勉強を教えてくれると子供たちはもっと行きます」という話はよく出ているので、前向きに考えていきたいと思っています。

6 閉会(事務局)

これで終了となりますが、ここで少しお時間を頂戴して、お手元のアンケートをご記入願います。皆さんの意見をまた次年度に向けて取り入れさせていただければと思いますので忌憚ないご意見をお書きください。

以上をもちまして、令和4年度第2回我孫子市地域学校協働本部運営委員会を終わります。本日はありがとうございました。